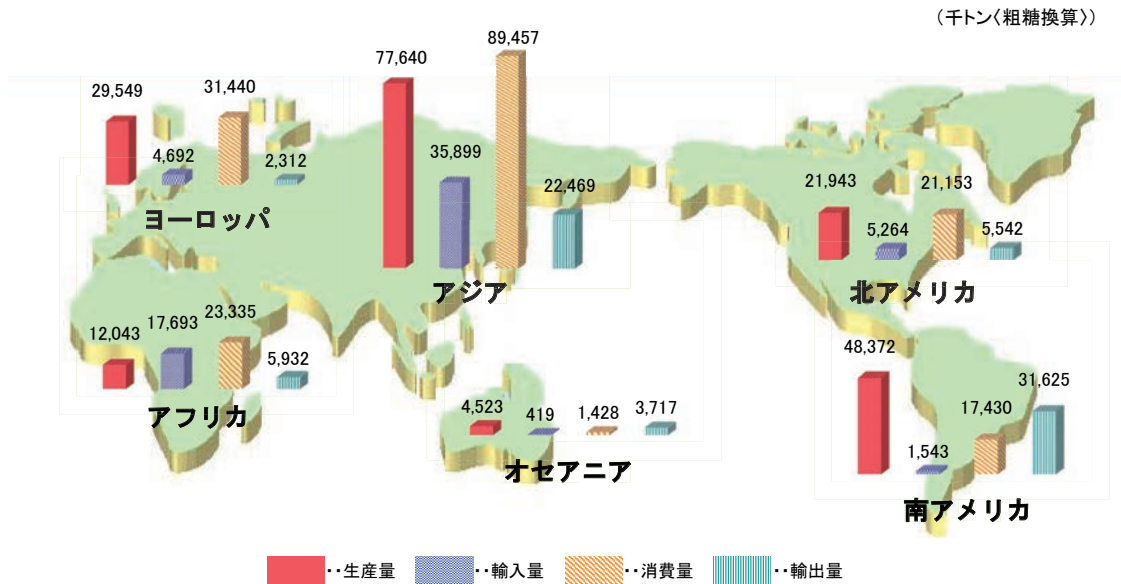


砂糖の国際需給

調査情報部 峯岸 啓之

1. 世界の砂糖需給（2022年9月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2022/23年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2022」
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

（単位：千トン（粗糖換算）、%）

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1992/93	43,275	110,780	28,551	109,895	29,700	43,011	39.1
1997/98	53,920	126,205	35,557	120,805	39,806	55,071	45.6
2002/03	60,687	149,947	42,690	140,189	45,359	67,776	48.3
2007/08	62,150	166,772	45,454	158,489	48,802	67,085	42.3
2012/13	53,771	185,867	60,712	173,346	63,294	63,710	36.8
2017/18	68,310	195,571	65,921	180,954	67,989	80,859	44.7
2018/19	80,859	186,541	61,016	182,953	61,604	83,858	45.8
2019/20	83,858	181,354	69,341	182,025	71,846	80,682	44.3
2020/21	80,682	181,935	67,627	185,095	68,149	77,000	41.6
2021/22	77,000	187,706	68,544	186,710	70,290	76,250	40.8
2022/23 (2022年9月予測)	76,250	194,070	65,509	184,244	71,596	79,990	43.4

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2022」
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。
 注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。
 注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

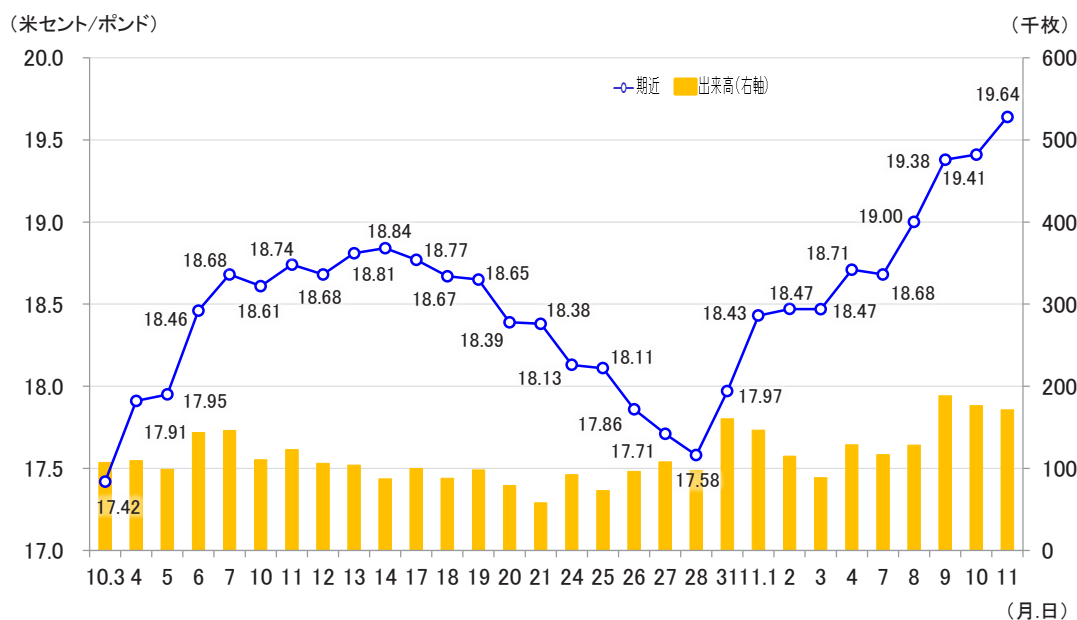
「世界の砂糖需給」「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの報告となっていますので、次回は2023年1月号の掲載予定となります。直近の内容は2022年10月号をご参照ください。
 「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002786.html
 「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002787.html

2. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（10/3～11/11）

～ 10月後半にかけて17セント台まで下落するも、10月末に再び上昇し、19セント台へ～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：期近3月限の値。

2022年10月のニューヨーク粗糖先物相場（3月限）の推移を見ると、初日の3日は、1ポンド当たり17.42セント（注1）を付け、4日以降は原油価格が堅調に推移し（注2）、7日は、同18.68セントまで上昇した。10日は、米ドル高に反発して（注3）、同18.61セントと落ち込んだ。11日は、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）がブラジル中南部地域の9月までの砂糖生産量を前年同月比9.9%減と下方修正したことから、同18.74セントまで押し上げられた。12日は、ドル高と原油価格の下落により、同18.68セントと値を下げた。14日は、持続的な降雨によるブラジルのサトウキビ収穫の遅れから、同18.84セントまで押し上げられた。17日は、インド製糖協会（ISMA）が2022/23年度のインドのサトウキビ生産量を前年度比2%増と予測したことを受け、同18.77セントに値下がりした。18

日以降は原油安などにより下降基調で推移し、21日は、同18.38セントまで落ち込んだ。24日は、前週に国際的な民間調査会社が2022/23年度の世界の砂糖生産量を前年度比4.8%増と予測したことで供給懸念が緩和され、同18.13セントに下落した。さらに追い打ちをかけるように、26日は、国際砂糖機関（ISO）が2022/23年度の世界の砂糖生産量を5年ぶりの高水準となる前年度比4.5%増と予測したことから続落し、同18セントを割り込んだ。その後、砂糖増産の見通しから下落を続け、28日には、リアル安もあり、同17.58セントまで落ち込んだ。31日は、ブラジルで続く大雨により製糖作業と出荷が遅れたことから反転し、同17.97セントを付けた。

11月1日は、ブラジル産砂糖の供給不足への懸念から引き続き上昇し、同18セント台と回復した。

3日は、原油安により、同18.47セントとほぼ横ばいとなったが、4日は、中国のゼロコロナ政策の転換期待が原油相場を押し上げたことから、同18.71セントまで上昇した。8日は、UNICAがブラジル中南部地域の10月中旬までの砂糖生産量を前年同月比7.3%減としたことから、同19.00セントまで押し上げられた。9日以降は、米ドル安とブラジルの減産見込みから上昇し、11日は、同19.64セントを付けた。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も増加する。バイオエタノールの需要増加により、その原料作物(サトウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が減ると想定される。食品用途仕向けの度合いが小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

(注3) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが下落すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が高まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が高まると、需給の緩和につながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向 (2022年11月時点予測)

ブラジル

2022/23年度 (4月～翌3月) の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：850万ha (前年度比2.4%減)

生産量：6億400万トン (同4.7%増)

【砂糖 (甘しゃ糖)】

生産量：3868万トン (同2.8%増)

輸出量：2818万トン (同4.0%増)

2022/23年度の砂糖生産量はわずかに、輸出量はやや増加する見込み

LMC International (農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社) による2022年11月時点の予測によると (以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述)、2022/23年度 (4月～翌3月) のサトウキビ収穫面積は、前年度の歴史的不作による苗不足から850万ヘクタール (前年度比2.4%減) とわずかに減少すると見込まれる (表2)。一方でサトウキビ生産量は、中南部地域が平年より乾燥した後、9月以降は降雨が続いて収穫作業が遅れたものの、その他の地域ではサトウキビの生育に良好な条件が続いたことから6億400万トン (同4.7%増) とやや増加すると見込まれる。砂糖生産量は、7月から相次ぐガソリンの卸売価格引き下げを受けて相

対的に同国内でのバイオエタノール需要が減少したことや、サトウキビの収穫の遅延により、砂糖仕向けの増加が見込まれることから3868万トン (同2.8%増) とわずかに増加すると見込まれる。輸出量も砂糖への仕向け増を背景に2818万トン (同4.0%増) とやや増加すると見込まれる。

エネルギー危機を背景にブラジル産エタノールの欧州向け輸出が加速

10月20日付けの現地報道によると、欧州各国はロシアのウクライナ侵攻に端を発したエネルギー危機に対処するため、安価なブラジル産エタノールの買い付けが進み、輸出が増えているとされている。欧州ではガスや電気などの光熱費が高騰し、9月までの同国の欧州向け輸出量は前年比で3倍に達し、

特に政策変更によってブラジルのバイオ燃料価格が急落した7月以降、買い付けが活発化している(注)。

(注)『砂糖類・でん粉情報』2022年9月号「世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向(2022年8月時点予測)」https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_002771.htmlを参照されたい。

同国の製糖企業は欧州での旺盛な需要に応えるべく、エタノールの増産を図っている。同国産エタノールの多くはサトウキビの搾り汁から製造されるが、搾汁後の残渣であるバガスも原料として活用できる。残渣由来のエタノールは食料消費と競合せず、

資源の有効活用と収益化に寄与するものである。ある大手製糖企業はバガス由来エタノール生産量を2024年までに現状の8倍とするため、現在三つのプラントの増設を進めており、この新プラントの生産量の8割がすでに契約済となっているとのことである。

これらの動きに対しある製糖企業は、現在、欧州ではわれわれが提供できる以上の需要があると語り、また別の企業は、今後同国でトウモロコシ由来バイオ燃料への投資が増加することで、欧州への輸出増加の動きは来年も続くだろうと述べた。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位:千ha、千トン、%)

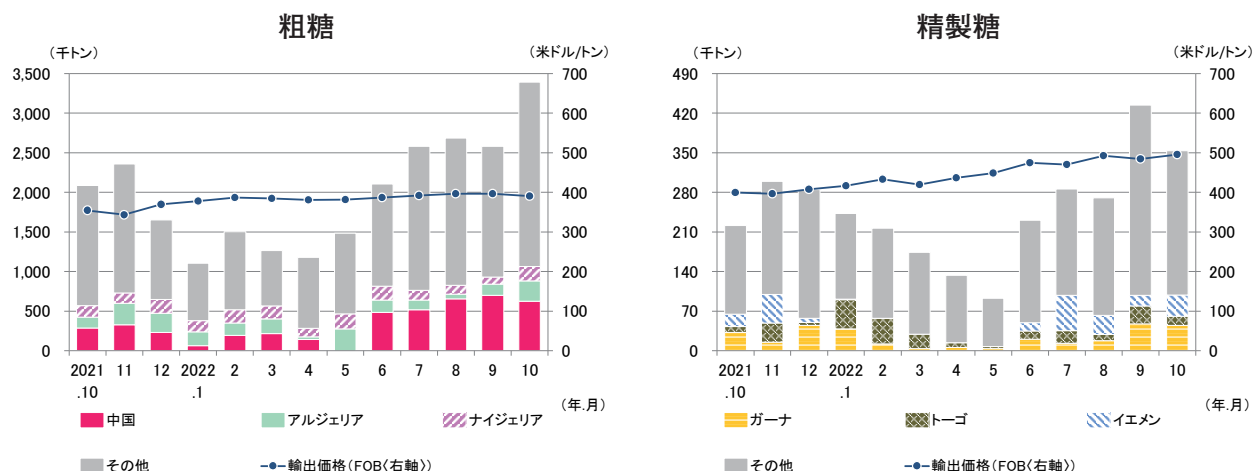
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (10月予測)	2022/23 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,599	8,651	8,709	8,509	8,503	▲2.4%	
サトウキビ生産量	642,677	657,432	576,707	604,000	604,000	4.7%	
砂糖	生産量	31,804	44,601	37,620	39,320	38,680	2.8%
	輸入量	6	8	9	8	8	▲10.6%
	消費量	10,842	10,996	10,666	10,666	10,506	▲1.5%
	輸出量	20,321	34,042	27,088	28,656	28,178	4.0%
	期末在庫量	3,778	3,349	3,225	3,225	3,229	0.1%
	期末在庫率	12.1	7.4	8.5	8.2	8.3	0.2ポイント減

資料: LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2022]

注1: 2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2: 期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料: [Global Trade Atlas]

注1: HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2: 輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。

インド

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：546万ha（前年度比5.7%増）
生産量：4億6875万トン（同5.3%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3858万トン（同0.1%減）
輸出量：898万トン（同26.9%減）

2022/23年度の砂糖生産量は横ばい、輸出量は大幅に減少する見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は、前年が豊作だったことに加えサトウキビ価格の上昇によりさらに拡大するとの予測から、546万ヘクタール（前年度比5.7%増）とやや増加すると見込まれる（表3）。主産地のマハラシュトラ州やカルナータカ州では雨季の雨量が平年を大きく上回っているものの、生育は順調でありサトウキビ生産量は4億6875万トン（同5.3%増）とやや増加すると見込まれる。一方で、砂糖生産量は、最大生産地ウッタル・プラデーシュ州では雨季の雨量が平年を大きく下回り減産が懸念されたものの、10月以降に続いた降雨に後押しされ、3858万トン（同0.1%減）と横ばいで推移すると見込まれる。輸出量は、同国政府が11月上旬に2022/23年度の砂糖輸出枠を600万トンと発表したものの、昨年度と同程度の生産が見込まれる中で2021/22年度と同様に追加輸出枠を承認する可能性も想定される。このため、2021/22年度の1120万トンには及ばないものの、近年と同程度となる898万トン（同26.9%減）が見込まれる。

バイオエタノールの政府買上価格を引き上げ

インド政府は11月2日、2025年までのE20（バイオエタノール混合率20%のガソリン）の普及目標を達成するため、供給促進を目的にサトウキビ原料に由来するバイオエタノールの政府買上価格の引き上げを発表した。これによると、製糖副産物であ

る糖みつ（モラセス）^{（注1）}のうち、商業的に回収可能な砂糖をほとんど含まないCモラセス由来のエタノール価格は、1リットル当たり46.66ルピー（91.45円：1ルピー＝1.96円）^{（注2）}から49.41ルピー（96.84円）に、Bモラセス由来は、同59.08ルピー（115.80円）から60.73ルピー（119.03円）に引き上げられる。また、サトウキビの搾り汁や砂糖などを原料としたエタノール価格は、同63.45ルピー（124.36円）から65.61ルピー（128.60円）に引き上げられ、これら新価格は12月1日から始まる次年度のエタノール混合計画（EBP）から適用される。

インド製糖協会（ISMA）は、CモラセスとBモラセス由来の価格引き上げに対し、歓迎の意を示すものの、搾り汁や砂糖などを原料としたエタノール価格に対して、新価格では生産強化への追加投資を促進するには不十分であるとし、さらなる引き上げを政府に要請した。ISMAは、これまで業界は投資回収期間5年間の自己資本利益率に基づいたエタノール価格を要求してきたとし、搾り汁や砂糖などを原料としたエタノールの新価格は、同69.85ルピー（136.91円）が妥当であるとしている。

（注1）甘しゅ糖の製造工程では、サトウキビの搾り汁を煮詰めることで砂糖を結晶化させる。結晶化した砂糖は遠心分離により糖みつと分離されるが、ここで得られた糖みつをAモラセスと呼ぶ。しかし、Aモラセスには回収可能な砂糖が含まれるため、再度煮詰め、結晶化を繰り返す。Aモラセスを分離して得られた糖みつをBモラセス、Bモラセスを分離して得られた糖みつをCモラセスと呼ぶ。

含糖量はA、B、Cの順に多く、Aモラセスには搾り汁から回収可能な砂糖のうち約23%、Bモラセスには約10%が残留している。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2022年10月末TTS相場。

表3 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

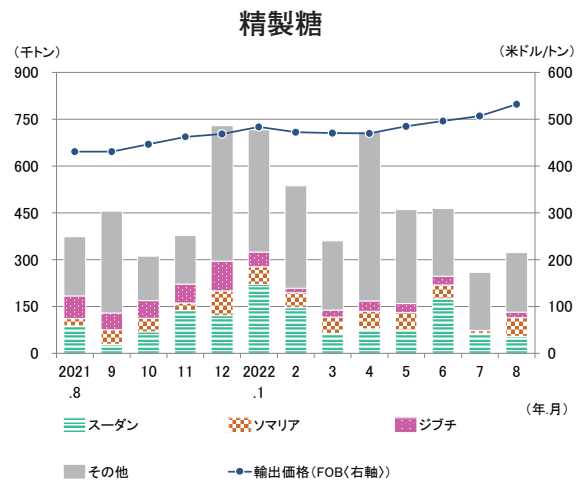
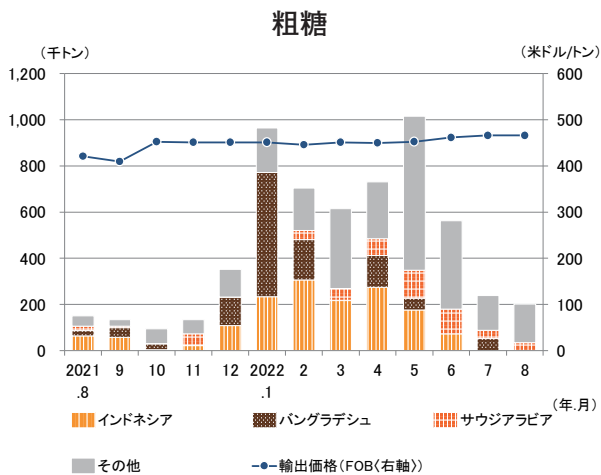
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (10月予測)	2022/23 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	4,642	4,906	5,171	5,425	5,464	5.7%	
サトウキビ生産量	369,805	421,687	445,092	461,489	468,754	5.3%	
砂糖	生産量	29,544	33,642	38,623	37,674	38,580	▲0.1%
	輸入量	1,686	1,022	420	216	216	▲48.6%
	消費量	27,324	28,679	29,376	29,916	29,916	1.8%
	輸出量	8,254	8,538	12,290	8,106	8,983	▲26.9%
	期末在庫量	10,510	7,956	5,333	5,385	5,230	▲1.9%
	期末在庫率	29.5	21.4	12.8	14.2	13.4	0.6ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2022」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。

中国

2022/23年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：113万ha(前年度比1.0%増)

生産量：7185万トン(同0.4%減)

【てん菜】

収穫面積：14万ha(前年度同)

生産量：748万トン(同5.9%増)

【砂糖(甘しや糖およびてん菜糖)】

生産量：1064万トン(同3.0%増)

輸入量：629万トン(同11.7%減)

2022/23年度の砂糖生産量はやや増加し、輸入量はかなり大きく減少する見込み

2022/23年度(10月～翌9月)のサトウキビの

収穫面積は、113万ヘクタール(前年度比1.0%増)とわずかに増加すると見込まれる(表4)。サトウキビ生産量は、主産地の広西チワン族自治区の一部

を除き熱波の影響を受けていないため、7185万トン（同0.4%減）とわずかな減少にとどまると予想される。一方で、同年度のてん菜の収穫面積は、トウモロコシ価格の高騰を背景に政府が3月に穀物の増産を呼びかけたことから、他作物への転作が増加したものの、14万ヘクタール（前年度同）と見込まれる。てん菜生産量は、順調な生育により748万トン（同5.9%増）とやや増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、サトウキビ主産地の広西チワン族

自治区で8月中旬から高温や乾燥が続いていたが、これまでの降水量が平年よりかなり多く、順調に生育していることから、1064万トン（同3.0%増）とやや増加すると見込まれる。輸入量は、2020年に引き続き21年も国内生産の不足分を上回る量が輸入され、国内在庫が積み増しされている中で、前月予測から砂糖の増産幅が拡大したことなどを受けて、629万トン（同11.7%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

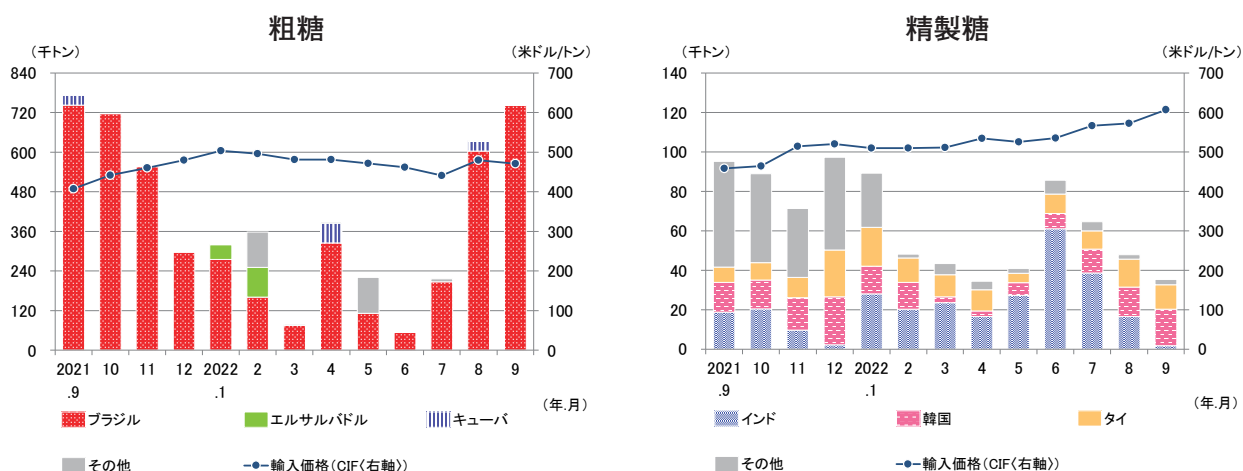
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (10月予測)	2022/23 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,176	1,157	1,119	1,115	1,131	1.0%	
サトウキビ生産量	73,715	72,441	72,136	71,762	71,846	▲ 0.4%	
てん菜収穫面積	213	231	144	130	144	0.0%	
てん菜生産量	10,900	12,330	7,070	6,736	7,484	5.9%	
砂糖	生産量	11,258	11,530	10,334	10,527	10,640	3.0%
	輸入量	6,661	8,227	7,124	6,561	6,290	▲ 11.7%
	消費量	16,308	16,740	16,524	16,740	16,740	1.3%
	輸出量	192	132	169	166	156	▲ 7.7%
	期末在庫量	12,660	15,546	16,311	16,332	16,345	0.2%
	期末在庫率	76.7	92.1	97.7	96.6	96.7	1.0ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2022」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸入量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

E U

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：140万ha（前年度比3.7%減）
生産量：1億135万トン（同8.4%減）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1613万トン（同6.2%減）
輸出量：110万トン（同15.4%減）

2022/23年度の輸出量は、かなり大きく減少する見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のてん菜の収穫面積は、一部のてん菜圃場^{ほじょう}で、より収益性が高く、価格の高騰しているトウモロコシなどの穀物が作付けされたことなどから、140万ヘクタール（前年度比3.7%減）とやや減少すると見込まれる（表5）。てん菜生産量は、今夏の記録的な熱波や干ばつの影

響、収穫面積の減少のほか、肥料価格高騰による施肥の減少から単位収量が平年を下回るものと見込まれることから、1億135万トン（同8.4%減）とかなりの程度減少すると見込まれる。砂糖生産量は、てん菜の減産見込みを受けて1613万トン（同6.2%減）とかなりの程度減少すると予想される。輸出量は、砂糖の減産などを背景に110万トン（同15.4%減）とかなり大きく減少すると見込まれる。

表5 EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (10月予測)	2022/23 (11月予測)	前年度比 (増減率)
てん菜収穫面積	1,517	1,474	1,453	1,399	1,400	▲ 3.7%
てん菜生産量	110,102	98,517	110,606	101,049	101,349	▲ 8.4%
砂糖	生産量	16,971	15,101	17,191	16,106	▲ 6.2%
	輸入量	2,230	1,888	2,081	2,386	28.5%
	消費量	17,016	16,742	17,741	17,722	0.0%
	輸出量	1,436	1,262	1,298	1,001	▲ 15.4%
	期末在庫量	2,347	1,332	1,564	1,338	▲ 2.2%
	期末在庫率	12.7	7.4	8.2	7.1	8.1

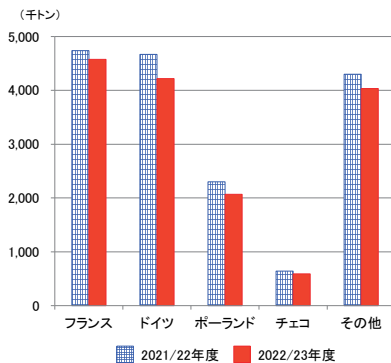
資料：LMC International [Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2022]

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

（参考）EUの砂糖生産量および国別の生産割合の見通し（2022/23年度）（2022年9月時点）

砂糖生産量

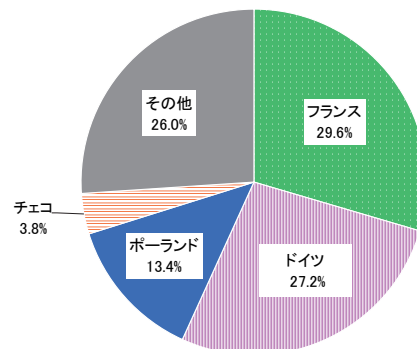


資料：欧州委員会

注1：精製糖換算。

注2：2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度は予測値。

国別生産割合



資料：欧州委員会

4. 日本の主要輸入先国の動向（2022年11月時点予測）

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先は、豪州およびタイであり、2021年の主要輸入先ごとの割合を見ると、豪州が86.6%（前年比0.03ポイント増）、タイが13.4%（同2.9ポイント増）と、これら2カ国でほとんどを占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州

2022/23年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：35万ha（前年度比2.3%増）
生産量：3100万トン（同2.9%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：407万トン（同1.3%減）
輸出量：305万トン（同17.6%減）

2022/23年度の砂糖輸出量は、大幅に減少する見込み

2022/23年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は、35万ヘクタール（前年度比2.3%増）とわずかに増加すると見込まれる（表6）。サトウキビ生産量は、3月と7月に主産地クイーンズランド州で洪水をもたらした降雨が収量には良い影響を与え、前年より良好な生育が予想されることから、3100万トン（同2.9%増）とわずかに増加すると予想される。

砂糖生産量は、ラニーニャ現象による悪天候の影

響で収穫作業が進まず、多くの製糖工場で処理作業が前年同期と比較して遅れており、また、CCS^(注)が低下したことから、407万トン（同1.3%減）とわずかに減少すると見込まれる。また、輸出量は、前年度は期末在庫の調整などを背景に輸出が拡大したものの、今年度は近時と同等の輸出量に落ち着くものとの予測から、305万トン（同17.6%減）と大幅に減少すると予想される。

(注) 可製糖率：サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。

表6 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (10月予測)	2022/23 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	364	354	342	350	350	2.3%	
サトウキビ生産量	30,046	31,074	30,114	33,073	31,000	2.9%	
砂糖	生産量	4,293	4,385	4,123	4,345	4,071	▲ 1.3%
	輸入量	17	10	15	17	17	13.3%
	消費量	1,085	1,041	1,042	1,040	1,040	▲ 0.2%
	輸出量	3,449	3,357	3,697	3,317	3,047	▲ 17.6%
	期末在庫量	747	744	143	148	144	0.6%
	期末在庫率	16.5	16.9	3.0	3.4	3.5	0.5ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2022」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

欧州の製糖業界、EUと豪州の自由貿易協定（FTA）交渉に関するコメントを発表

欧州砂糖製造者協会（CEFS）はホームページを通じ、EUと豪州のFTA交渉（注1）におけるEUの砂糖の輸入について、EUでの砂糖事情や豪州との物理的距離、また、EUの砂糖産業の保護などの観点から、この度のFTA内容に異議を唱えている（注2）。

具体的な理由として、まず、EU域内での砂糖生産と消費事情を掲げ、豪州とはWTO協定に基づいた年間1万トンの関税割当がすでに設けられEU市場に参入している中で、近時の生産コストの高騰にもかかわらず、シーズン末には十分な期末在庫量が確保されているとしている。

また、EUと豪州には物理的な距離があるため、輸送コストのみならず物流に係る温室効果ガス（GHG）の発生は無視できない状況にあるとした。特にGHGの発生は、持続可能性を柱としたEUの砂糖産業の考えに到底合致するものではないとしている。

さらには、EU域内の産業としての重要性にも言及している。砂糖産業はEU全域の農村地域に住む数十万世帯の生活を支えてきた農業と工業のハイブリッド産業であり、このような地域では、報酬の高い産業は少なく、簡単に他の産業に代替できる状況にないとし、豪州からの砂糖の輸入は、農村地域の持続可能性を脅かすものであるとしている。また、てん菜糖の生産は資本集約度や高度な専門性から、衰退後の再興の難しさも不安要因に掲げている。

（注1）EUは本年6月にも、ニュージーランドとのFTAで大筋合意に達しているなど、オセアニア地域におけるFTA締結が続いている。詳細については、2022年7月11日付海外情報「EUとニュージーランド、FTAで大筋合意（その1：EU側の措置と反応）（EU）」https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003300.htmlを参照されたい。

（注2）詳細については、2022年12月2日付海外情報「欧州の製糖業界、EUと豪州の自由貿易協定交渉に対し砂糖輸入に関する懸念を発表」https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003404.htmlを参照されたい。

タイ

2022/23年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：168万ha（前年度比12.8%増）

生産量：1億1000万トン（同19.5%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：1277万トン（同19.4%増）

輸出量：852万トン（同5.6%増）

2022/23年度の砂糖生産量は大幅に、輸出量はやや増加する見込み

2022/23年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、前年が豊作であったことや、競合するキャッサバに比べて収益が高い状況にあるといった理由から、168万ヘクタール（前年度比12.8%増）とかなり大きく増加すると見込まれる（表7）。サトウキビ生産量は、東北地域の低地帯で洪水が発生したものの、洪水の被害がなかった他の地域で収量の増加がみられ、1億1000万トン（同19.5%増）と大幅に増加すると見込まれる。

砂糖生産量は、グリーンハーベスト（注）の普及を背景とした梢頭部^{しょうとうぶ}や葉などの混入が歩留まりを低下させるものの、1277万トン（同19.4%増）と大幅な増加が見込まれる。輸出量は、大幅な増産を受けて852万トン（同5.6%増）と倍増した前年度からやや増加が見込まれる。

（注）サトウキビを燃やさず、そのまま収穫する方法。従来、同国ではサトウキビを燃やした後に収穫するのが一般的であったが、大気汚染を引き起こすとの批判が国内で高まったため、近年はグリーンハーベストが推進されている。

表7 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

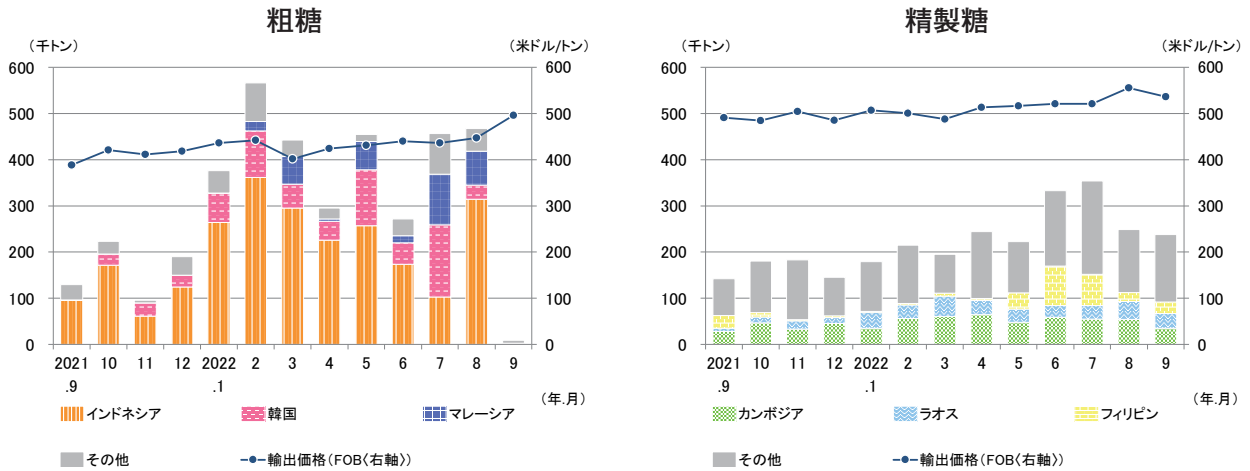
年度	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23 (10月予測)	2022/23 (11月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,714	1,485	1,489	1,679	1,679	12.8%	
サトウキビ生産量	74,893	66,659	92,071	110,000	110,000	19.5%	
砂糖	生産量	8,801	7,971	10,699	12,774	12,774	19.4%
	輸入量	66	113	160	10	10	▲93.8%
	消費量	3,773	3,592	3,644	3,724	3,724	2.2%
	輸出量	8,461	3,981	8,069	8,721	8,523	5.6%
	期末在庫量	4,532	5,043	4,189	4,484	4,726	12.8%
	期末在庫率	37.0	66.6	35.8	36.0	38.6	2.8ポイント増

資料：LMC International 「Monthly Sugar Information in Major Countries, November 2022」

注1：2020/21年度および2021/22年度の数値は推定値、2022/23年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。